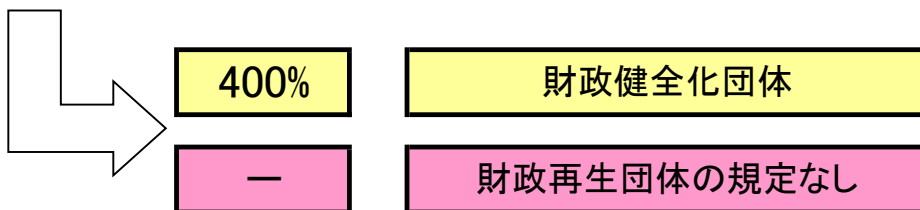


健全化判断指標④

将来負担比率

一般会計等が将来負担すべき
実質的な負債の
標準財政規模に対する比率

地方債残高や債務負担行為に基づく一定の支出に加え、
従来の決算になかった退職給与引当金等を負債とみなし算出



■算定方法

$$\text{将来負担比率} = \frac{\begin{array}{l} \text{将来負担額} \\ \text{(地方債残高・退職給与引当金等)} \end{array} - \begin{array}{l} \text{充当可能基金額} \\ \text{充当特定財源見込額} \\ \text{基準財政需要額算入見込額} \end{array}}{\begin{array}{l} \text{標準財政規模} \\ \text{(臨時財政対策債を含む)} \end{array} - \text{基準財政需要額算入額}}$$

■熊本市の将来負担比率

$$\frac{639,853 \text{ 百万円} - 461,612 \text{ 百万円}}{214,886 \text{ 百万円} - 23,595 \text{ 百万円}} = 93.1\%$$

* 参考: 令和5年度決算

$$\frac{637,877 \text{ 百万円} - 466,313 \text{ 百万円}}{207,949 \text{ 百万円} - 23,342 \text{ 百万円}} = 92.9\%$$

早期健全化ライン（400%）を下回っている